

Letter from TOZANSO

2025年

春



2025年3月20日発行
発行人：森田義彦
編集人：阪田祥章
公益財団法人 日本YMCA同盟
国際青年センター 東山荘
〒412-0024
静岡県御殿場市東山1052
Tel 0550-83-1133
Fax 0550-83-1138
www.ymcajapan.org/tozanso
(題名は故北村徳太郎氏)

東山花だより

YMCA東山荘は、 創設110周年を迎えます。

コラム「富士山が見ている」16号
—富士山と共に—

YMCA東山荘所長 森田義彦

110年前も同じ風に吹かれ、同じ富士山を若人たちは見ていたのだろうか。1915年に開設したYMCA東山荘はいつの時も富士山と共に歩んできた。

創設からの歴史を振り返ると若人たちの熱い志を感じることができる。富士山を仰ぎ見る地で夏季学校の常設館としてスタートした東山荘であるが、その道のりは決して平坦ではなかった。関東大震災、火災、世界大戦、近年ではコロナ禍等、様々な災禍にあいながら今も活動を継続できている。それは時々の多くの人々のお支えはもちろんであるが、開荘時の若人の熱き祈りが霊的な支えとなっていることを思わずにはいられない。現在は黙想館が建つ夕陽の丘で語り継がれた福音の教えが、今もYMCA東山荘に流れている。

1/22 (22分の1)、私が東山荘に捧職してからの時間は110年館の中でわずかではあるが、先人たちの思いを様々な場面、時に感じている。黙想館で祈りを捧げる時、記念館での暖炉の前、カレーライスを食べる時、ふとした時に開設当時の名も知らぬ若人を覚える。

今は幼子からご高齢の方まで、多くの人々にご利用いただいている。開荘当時の活動とはまた違った状況であるが、ご来荘される方たちの東山荘への思いは変わらないと感じている。

神を思い、神と共にいる場所として、同じ時を生きていることに感謝し111年への歩みを始めたい。在圭平安

第二十五回夏季学校

1915年（大正4年）7月24日、第25回夏季学校の中でYMCA東山荘の献堂式が行われました。1889年（明治22年）「聖書研究夏季学校」として京都の同志社大学で最初の夏季学校が開かれて以来、夏季学校は毎年日本各地を会場に行われてきました。その中から「常設の場を持ちたい」という願いが生まれ、その願いが25年にわたる内外関係者の努力によって実ったものが、ここ「YMCA東山荘」でした。

お問い合わせ・お申込み

資料の請求はこちらまで

YMCA東山荘

〒412-0024 静岡県御殿場市東山1052

TEL 0550-83-1133 FAX 0550-83-1138

E-mail: tozanso@japanymca.org

ホームページ www.ymcajapan.org/tozanso

第25回夏季学校（1915年7月21日～27日）の集合写真。二列目中央付近に校長井深梶之助。背後に見える建物は新築なった校舎（講堂）または第一寄宿舎で、いずれもW.M.ヴォーリズが設計。

110周年特集①

当時の資料に見る

YMCA東山荘誕生の瞬間

開設110周年を迎えるにあたり、当時の資料を紐解きながら、YMCA東山荘の誕生の瞬間を垣間見たいと思います。1世紀を超える働きの中で、その活動形態は変化してきましたが、東山荘の原点——人間の尊重と全人格の成長を願う学びと祈りの場——であることは今も変わりません。

待望の常設館ⅡYMCA東山荘が誕生した第25回夏季学校の校長を務めた井深梶之助は「開校の辞」の中で感慨深くこう述べている。「かく創立以来二十五回を重ねるも、なお一定の校舎を有せず、転々各地に開校し、其不便は甚大なものであった。然るに今度主事以下建築委員諸君の尽力により、こ



また、夏季学校の目的については「吾が夏季学校の目的及特徴を一言につくせば、霊的修養と伝道心の發揮である」と述べ、続けて「由来霊的修養といえは自己中心となり、これに

私たちにも迫ってくる。「第一

没頭すれば全く利己的独善的の修養になるの傾向があるが、吾等の修養は他人と交り他人に使う事によって其大半が達せらるるものである事を忘れてならぬ」と、それが人と人の人格的交流から生まれるものであることを強調している。

7月24日に行われた献堂式の来賓祝辞も見てみよう。御殿場町長であった勝又勝美の願いは現実になった。「ここに夏季学校の常設館が設けらるるについては、最初より非常なる喜びを感じている者である。われらはこの辺鄙の土地において諸君に何ものの応酬をすることはできないが、嵐の涼味と雄大なる景色は永く諸君を楽しめますに足るものがあると思う。校舎がここに建築された上は、富士山のごとくこの地に固定されることを切望する」。

に全国青年の諸君のために、第二にはその青年によって改善さるべき社会のために、満腔の喜びを申し上げます。今日万般の社会を見ると、青年の力によって改善すべき点が決して少なくありません。ことに信仰ある青年の人格者が現れて、わが国の上下に瀾漫する腐敗を一掃していただかなければなりません。（中略）そしてその任にあたる者は基督教徒の外にありません」。

YMCA東山荘の責任

YMCA東山荘が果たすべき使命・責任についても言及がある。東山荘の生みの親の一人

フィッシャーは閉校式で「二十五回の夏季学校は新築の校舎を得たるは特別に感謝すべき事である。これを十七年前の葉山のそれに比較すれば、天地霄壤の差がある。これ皆内外同情者の恩恵なりとすれば、多く与えらるるものは亦多く求めらるるわけ、われらの社会に負う責任は決して軽くない事を記憶しなければならぬ」と述べ責任の重みを指摘している。

同じく閉校式で斎藤惣一はこう述べYMCA東山荘の行き先を照らした。「前の夏季学校では聖書研究が中心問題であった時もあるが、今年の中心問題は何であったか。（中略）富士の眺めはやがてわれらの眼から消えて行く時が来る。今日別る



友のうちには再会の機なき人もいるかもしれない。しかし、われらの中心に忘るることのでき

ない記憶、消す事のできない印象がないか。（中略）富士が群密を抜いて聳えているように、雑然だるわれらの感想の中を貫ける主流は「キリスト中心の思想」のそれである。われらはパウロとともに、いまだとれるあらざるも、後なるものを忘れ、目標に向かって進むのである。しこうしてその目標はイエスである。この目標に向かって精進すると、これわれらの絶えざる願望、不断の努力である」



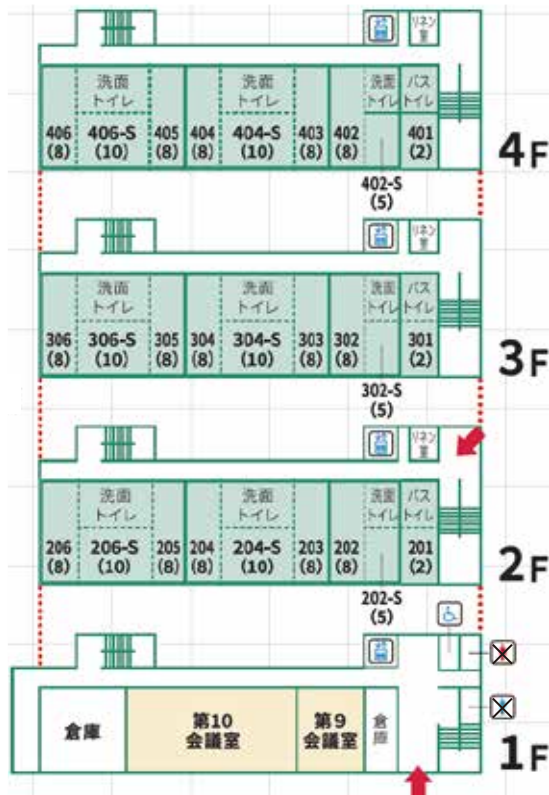
夏季学校の夕陽会（礼拝）。説教者ヴォーリス。

YMCA東山荘開設110周年にあたり、第25回夏季学校の様子を伝えました。次号以降も特集を続ける予定です。ご意見・ご要望等がございましたらぜひお知らせください。古い資料のご寄贈も願います。

- 1844 ロンドンでYMCA誕生
 - 1880 日本初のYMCA 東京に誕生
 - 1889 同志社大学で第1回夏季学校
 - 1911 第22回夏季学校（鎌倉）において「夏季学校常設館の計画」が話し合われる。御殿場東山に土地約3600坪を購入。
 - 1912 常設館第1期工事。茅葺2階建ての建物を近隣から移築
 - 1913 常設館建設のための募金と工事が進められる
 - 1915 YMCA東山荘開設（7.24）。講堂と第一寄宿舎(1号舎)完成（いずれもヴォーリス設計）
 - 1915～17 2号舎、3号舎増築
 - 1920 夏季学校30周年として図書館が作られる（推定場所：現在のネイチャーセンター付近、詳細不明）
 - 1923 関東大震災、1号舎倒壊するも北米YMCAの支援等で再建
 - 1926 茅葺建物が焼失
- ・・・次号へ続く

6号館リニューアルオープン

昨年12月より6号館（1982年竣工・鉄筋コンクリート造4階建て）の全面改修工事を進めていましたが、この3月に無事終了しリニューアルオープンしました。外装・内装ともに一新した「新・6号館」をぜひご利用ください。レイアウトや宿泊定員はこれまでと変わりません。また、この工事にあわせて5号館本館側の共同トイレもリニューアル中です（3月29日完了予定）。さらに利便性が高まりました。



* ()内の数字は宿泊定員です。*S=サイドルーム
*1階の男女トイレは基本的にご利用いただけませんので、リニューアルした5号館横の公共トイレをご利用ください。

6号館は8名のベッドルームにサイドルーム（S）がつき、Sは小さな集まりや打ち合わせ、団欒など多目的に使用できます。またSは布団を敷くことで寝室にもなり、団体様には特に使い勝手が良いと評判の宿舎です。各階にはバス・トイレ付の講師室もあります。すべての部屋から富士山を望むことができます。



景観に配慮した外観。YMCAロゴもどこかにあります。探してみてくださいね。



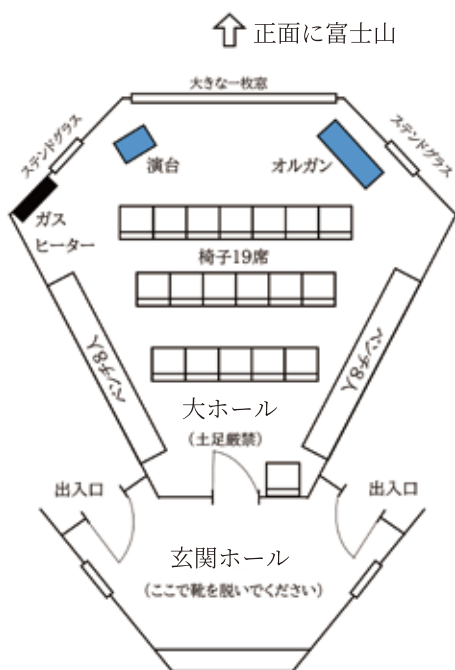
トイレ・洗面台ももちろん新しくなり、照明はすべてLEDに。



カーペットや扉などは階ごとに色が違います。全ての階に泊まってみてね。



廊下もこれまでより明るく感じるようになりました。



*大ホールは土足厳禁です。お手数ですが、必ず玄関ホールで靴を脱いでいただくようお願い致します。



改装した大ホール。落ち着いた佇まいはそのまま残しています。



扉は大工さんの手作りで、金物などは貴重品のため以前の物を再利用したりしています。

匿名の方からのご寄付により、2月から黙想館の改修工事も進められています（4月12日完了予定）。黙想館は東山荘60周年事業として1975年に多くの方々からのご寄付により建設された「祈りの家」です。黙想館50周年にあたる記念すべき年にリニューアルできたことを感謝と共にご報告します。

今回の改修工事では、ホールの塗装やカーペットの張替え、傷んだ建具や扉の新調・修理のほか、屋根の防水処理、外壁や石垣の補修・塗装、石階段の修理等の外装工事も行います。

黙想館はどなたでもお使いいただけるよう基本的には朝7時から夜7時まで開いております。譲り合ってご利用ください。

ご寄付により黙想館もリフォーム中

職員レポート

東日本地区YMCAスタッフ研修会報告

東日本大震災から14年におもう

YMCAスタッフを対象とする標記研修会が1月22日(木)から23日(木)にかけて1泊2日の日程で、福島県の富岡町、双葉町、浪江町で開催され、YMCA東山荘から沼田、小林、阪田の3名の職員が参加しました。

今回のテーマは、金迅野先生による①「YMCAにおけるキリスト教の理解」、フクシマ・原子力災害関連資料館見学として②「声なき声を聴くには？現実と史実の見つめ方」、そして③「各YMCAスタッフとの交流」でした。

最初に訪問した東京電力廃炉資料館では、案内者から事故へ



震災遺構・請戸小学校の教室跡。津波が校舎2階床近くまで襲来し、1階部分は壊滅状態だった。

の謝罪や現在の状況、今後に向けての取り組みなど、東京電力としての立場からの説明がありました。

その後、東日本大震災・原子力災害伝承館を見学し、語り部の木村紀夫氏による「大熊町の現状と復興を考える」「経験、体験から考える」というテーマの講演も聞くことができました——いまだに最終的な汚染土の処理する場は決まっていない、みなさんの地域で受け入れてくれますか？との投げかけがありました。けれども手を挙げられませんでした。ひとつの地域でも受け入れても良いという方がいる、そこで分断が起きてしまう、それなら、この地（大熊町）が最終処分地でも良いと思うと仰っていました——私たち参加者の心が辛くなった瞬間です。

翌日は金迅野先生主導のもと前日の見学や体験を踏まえて、キリスト教やYMCAについて全員で考え討議する時間を持ちました。YMCAで働くうえで、「考えること」、「人に寄り添うこと」の意味を改めて考え直す時間となりました。

最後に、全員が無事避難する

ことができた奇跡の小学校、浪江町請戸小学校の跡地を見学してきました。遺構として保存された請戸小学校は、被災当時の姿を残し、自然災害のリアルと

教訓を今もなお伝えていています。今回の研修に参加し、14年が経過したにも関わらず「復興」は現在も進んでおり、逆に言えば終わっていない、「復興」と

は建物を直すだけではなく、人の心や生活が戻ることで優先であり、経済が優先ではないのではないかと考えることを考えさせられました。（沼田・阪田）

ピンクシャツデー

取り組みから10年——

いじめのない社会を目指して

御殿場・小山の全学校にチラシ配布

ピンクシャツデーとは、毎年2月の最終水曜日に行われるカナダ発祥の世界的ないじめ反対運動です。

YMCA東山荘では、近隣の小・中学校にチラシとポスターを配布してアピールを行ってきました。当初は御殿場市および小山町にある小・中学校のみを対象として行ってきた取り組みですが、徐々に範囲を拡大し、今年度は御殿場市・小山町内に

あるすべての学校にチラシとポスターを配布することができました。御殿場ロータリークラブの皆様や各市町の教育委員会様のご理解とご協力のもと、毎年活動を行えていることに深く感謝しております。

「YMCAのチラシを見て生

徒会が主体となりピンクシャツデーを全校集会で取り上げた」、「毎年、先生がピンクシャツデーについて考える時間を設けてくれる」などといったエピソードも寄せられており、私たちが続けてきたピンクシャツデー運動が、少しずつ地域に根付いてきているのを感じます。

YMCAがピンクシャツデーの取り組みを始めてから、まもなく10年を迎えます。変化する地域の状況にも対応しつつ、これからもこの取り組みを推し進めてまいります。（小林）



ピンクシャツデーの取り組みは全国で展開されています。ぜひご賛同ください。

【感謝】

「東山荘友の会募金」
2024年度のご報告

(2024年4月1日～2025年3月11日)

114件 1,075,245円

皆様のご支援に心より感謝申し上げます。募金は6号館の施設改修や枯木伐採に活用させていただきました。ご協力ありがとうございました。2025年度も皆様からのご支援を心からお願い申し上げます。

＊同封の払込票をお使いください。

＊郵便振替

00800-6-66931 公益財団法人日本YMCA同盟

国際青少年センター東山荘

＊オンラインからもご寄付のお手続きが出来ます。➡QRコード



公益財団法人日本YMCA同盟への寄付金は税制上の優遇措置が受けられます。



主催プログラムご案内

【告知】

※日程と内容の告知です。まだご案内（募集）を開始しておりません。ご案内ご希望の方は東山荘までご連絡ください。内容は変更になる場合があります。

●春のこども自然キャンプ

「道志山塊縦走27km3日間の山旅」

5月3日(土)～5日(月)2泊3日
対象：小中高生

山梨県東部・道志川に沿って連なる道志山塊は、登る人が少ないため、のんびりと静かな山旅を楽しむことができます。今回は厳道峠から道坂峠までの区間、27kmの道のりを、大小32のピークを越え、東から西へと縦走します。その累積標高差（登り下りの標高差合計）は何と5240m！でも意外と起伏はゆるやかで歩きやすく、また3日間の行程に分けるので、初心者でも完走できる内容です。きつと山歩きの楽しさを実感できるでしょう。この春、みんなでかけがえのない体験を分かち合おう。来たれ、キャンプキッズ！（部分参加可）

●のんびり楽しく富士山登頂

8月11日(月)～14日(木)3泊4日
対象：どなたでも

今年で29回目となる当プログラムは、年齢や体力面で不安な



富士山頂にて（背後は日本最高峰・剣ヶ峰）

方や、お一人で参加の方も、みんながそろって、楽しく、安全に登山できるよう、経験豊富なスタッフが登山装備の準備段階からサポートします。緑が色濃く残り野鳥の囀りも楽しめる須走口登山道を登ります。例年、小さなお子様から高齢の方までが参加され、大家族のような和気あいあい、ほのぼの登山を実践しています。

●こどもチャレンジキャンプ

「累積標高差1万m！富士山登頂グレートジャーニー」

8月17日(日)～22日(金)5泊6日
対象：小中高生

富士山登頂を最終目的とした6日間の壮大な山旅に出かけます。東山荘を立ち、背後にそび

える金時山に登頂し、北尾根をたどり足柄峠を経て駿河小山の町まで下山。その後、不老山に登頂し三國山稜を縦走、須走の町に下り、そこから旧登山道をたどり富士山頂を目指します。大小46のピークを越え、日本の頂きに立つ、その道のりは65km、累積標高差（登り下りの標高差合計）は何と1万337mに達する、かつてないビッグチャレンジです。大自然の中で仲間と共に大きな目的を遂げる喜び、達成感は一生涯の宝物となるはず。この夏、みんなでかけがえのない思い出を。来たれ、キャンプキッズ！（部分参加可）

●【祝・還暦！】

第60回年末年始家族パーティー
12月30日(火)～1月3日(土)
4泊5日

対象：どなたでも！

お正月は大好きな東山荘で、という思いから始まった「年末年始家族パーティー」は次回で記念すべき60回目を迎えます。どなたでもご参加いただけます。部分参加も可能です。皆さまの「おかえり」を心からお待ちしております。まだまだ内容については検討中ですが、昔の写真、思い出の寄稿などご協力いただける方は「一報ください。東山荘（年末年始家族パーティー担当者宛て）」までお電話またはFAX、メールで。
メール：ny@japanymca.org

季節の一品

Seasonal Recipes



帆立貝と春野菜のスープ

春野菜と帆立貝の旨味を楽しむ料理です。
野菜をよく炒めて甘味を出す事がポイントです！！



食堂店長・料理長
長田 尚弥

材料（4人前）

帆立貝..... 4個
人参..... 50g
玉葱..... 80g
キャベツ..... 80g
グリーンピース..... 50g
菜の花..... 80g
マッシュルーム..... 4個
バター..... 40g
水..... 800cc
塩・胡椒..... 適量

1. 帆立貝は貝柱と紐に分け1cm角に切る。
2. 野菜も1cmに切る。
3. 鍋にバターを入れて火にかけ、人参・玉葱をよく炒め、さらにキャベツ・グリーンピース・菜の花・マッシュルームを加えて炒める。
4. 3に水800ccを注ぎ、15分位煮る。
5. 4に1も加えて塩・胡椒で味を整え、器に盛り付ける。



4月6日(日)
11:30~14:00
「森のレストラン」
桜ランチビュッフェ
開催決定！！



料金：大人 1,650円、
小学生 1,100円、幼児 770円

※ラストオーダー13:30。
※事前予約は3月20日より受付開始（お電話にて）
※2部制（①11:30～、②12:50～）
各部70分、12:40～入替となります。
※事前予約は桜が埋まり次第、受付終了です。